



# 松蔭 校長室だより

2023年 10月 2日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

松蔭中学校・松蔭高等学校

校長 浅井直光

「ある夜、私は夢を見た。私は、主（しゅ）とともに、なぎさを歩いていた。暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。どの光景にも、砂の上に二人のあしあとが残されていた。一つは私のあしあと、もう一つは主のあしあとであった。」  
「私の人生の一番辛いとき、一人のあしあとしかなかったのです。一番あなたを必要としたときに、あなたがなぜ私を捨てられたのか、私にはわかりません。主はささやかれた。『私の大切な子よ。私はあなたを愛している。あなたを決して捨てるりはしない。ましてや、苦しみや試みのときに。あしあとが一つだったとき、私はあなたを背負って歩いていた。』」

（詩「あしあと」より抜粋）

## 秋支度（あきじたく）とともに 一冬服への衣替えは10月16日—

猛暑日、真夏日の文字を見聞きする回数も減り、朝夕、過ごしやすい季節になりました。秋空に薄雲（うすぐも）、翳雲（いわしぐも）にうろこ雲が広がります。衣替えは、校則の上では10月1日ですが、最近では毎年遅らせています。今年も天気予報とにらめっこしながら、10月16日（月）からとしました。肌寒い場合にはカーディガンを着用するなど調整していただくようお願いします。日暮れが徐々に早くなるのに合わせて下校時刻も変更します。今月より午後5時30分としていますが、10月20日からは午後5時になります。クラブの大会やコンクール前などで認められた場合のみ、下校時刻後1時間までの延長活動を可としています。

秋の高大連携プログラムとして大学出張授業のほか、高校の Blue Earth Project（高1、高2）の校外活動を下記のとおり予定しています。

○高大連携プログラム（医療系・理系出張授業）は、保護者の方も聴講できます。別に Classi でご案内します。

10月 3日（火）同志社女子大看護学部 橋本秀実先生「世界の子供の健康」

11月 24日（金）関大総合情報学部 林勲先生「人工知能の科学『深層学習、ニューラルネットワーク』」

12月 12日（火）神戸薬科大 大山浩之先生「薬学における分析化学とは」

○高校 Blue Earth Project”の取り組み

10月 22日（日）神戸三宮センター街1丁目付近での環境問題啓発活動（高校1年生約60名）

11月 5日（日）東京都新宿区「新宿御苑」での「グリーンチャレンジデー」イベント（高校2年生5名）

\*松蔭生の啓発ブースのほか、東洋英和女学院高等部、山脇学園、三輪田学園など各校生徒との合同アクションを予定 \*イベントWEBページはこちら

➔ [GTF グリーンチャレンジデー2023 in 新宿御苑 \(gtfweb.com\)](http://gtfweb.com)



昨年の Blue Earth Project の取り組みの一コマ

（2022年11月 三宮センター街にて）

## 校外学習に「同行（どうぎょう）」の思い

高校2年生の修学旅行は、2022年度よりシンガポール海外研修を計画していました。昨年度は、コロナ禍により旅程を国内（八重山諸島方面）に変更しましたが、今年度も様々な制限が残る可能性を考慮して、早い段階で国内の代替旅程に変更しました。今回は、東北地方の岩手県、宮城県を巡り、南下して東京ディズニーリゾートに入る予定です。

本校の東北方面への修学旅行の歴史は長く、学校に残る記録によると1957年に始まりました。この年は高2、高3の2学年合同の総勢750名にのぼる松蔭生が、三宮駅から貸し切り列車「松蔭号」を仕立てて25時間かけて一路盛岡へ向かいました。到着後、バス22台を連ねて岩手県のほか、青森、宮城、福島を巡り、東京に入り一泊しています。その後、聖公会関係の繋がりにより、東京築地の聖路加国際病院（現在、聖路加国際大学を併設しています）を全員で訪問しました。8泊9日にわたる長旅でしたが、当時、東北方面を巡る高校の修学旅行は珍しく、各地で郷土色豊かな特別行事で大歓迎されたそうです。一時期、行き先が北海道に変更したり、東日本大震災後の数年間は行先を変更したりした学年もありましたが、コロナ禍前の2019年度まで東北地方が本校「伝統ルート」でした。今回は、70年前の初回同様、岩手から東京に入るのですから「伝統復活」の感があります。

先日、学校の図書館で本巡りをしていると一冊の書物に出会いました。江戸時代に松尾芭蕉が歩いた「奥の細道」全行程を、一人の芭蕉研究者が300年後の現代、徒歩で歩き通し、書き綴ったエッセイ集です。筆者は、江戸深川（現在の東京都江東区）の芭蕉庵跡を出立し、東北、北陸を巡り、むすびの地美濃大垣まで、百数十日、総移動距離2,400キロメートルを踏破しました。今回の修学旅行の訪問地、平泉の中尊寺の「夏草や兵どもが夢のあと」「五月雨の降のこしてや光堂」の句碑も訪れました。筆者は道中、「芭蕉と同行二人（どうぎょうににん）、私は何度も芭蕉さんの声をじかに聞いた」と記しています。すぐ横を自動車が通り抜ける田舎道をただ一人歩く旅路で、秋風のしみじみと身に染みる哀れを感じつつ筆者が感じた芭蕉の「同行（どうぎょう）」を思います。孤独のなか、満たされる心持ちを得て、安心感が筆者を包み込んだことでしょう。「同行二人」は、もともと四国八十八カ所を巡礼するお遍路さんの白衣や傘に書き込まれた言葉で、巡礼道中には、弘法大師（空海）様が、自分と寝食を共にしながらいつも傍にいて、絶えず見守ってくださっているという信仰を表します。

冒頭の詩「あしあと」で、私（作者）は、「あなたを背負って歩いていた」と語る主（神様）の言葉を聞きました。主（しゅ）とともに「同行二人（どうぎょうににん）」の信仰生活を歩む作者の日常を想像します。芭蕉様に大師様、苦しい時に背負って歩いてくださる神様と場面も宗教観も異なりますが、「同行」の存在は旅人に安心と生きる勇気を与えます。

今月は、東北・東京への修学旅行（高2）のほかにも沖縄本島（中3修学旅行）、カナダでの1カ月研修（高1GLコース）、福島 British Hills 英語研修（中2DS）、瀬戸内海直島アートマインドの旅（中2GS）の校外宿泊行事、日帰り校外学習として、丹波篠山と立杭焼き体験（中1DS）、淡路島（中1GS）、大阪日赤センター（中2GS）、大阪明治なほどファクトリー（中3GS）、奈良公園（高1LS）を予定しています。生徒一人ひとりに学びと気付きが生まれることを願います。私自身は、中2の英語研修をのぞき引率できませんが、はるか及ばぬことを重々承知のうえで神戸の地から、生徒たちとの「同行（どうぎょう）」が叶うよう願いつつ、保護者の皆様とともに旅路の安全を心から祈りたいと思います。